



日本を護る会 レポート

日本の伝統・精神の次世代への継承

第 41 号(令和 3 年 6 月)

理事長挨拶：

日本を護る会レポート 41 号をお届けします。本年最初のレポートです。折柄のコロナ事態で恒例の初詣は中止となり、2月、3月、4月に計画しました各定例会は、それぞれ3ヶ月延期されて、2月計画の定例会は5月15日にロシア大使館においてミハイル・ガルージン駐日ロシア連邦共和国大使による「ロシア外交と露日関係」と題したお話を伺いましたが、ロシアから見た世界情勢等はやはり我々とは違う面もあり、良い勉強になりました。また、3月に計画しました定例会を6月19日に行い、外務省モンゴル・中国第1課長の門脇仁一氏による「中国を見るキーワード(私見)」と題しての現職の外務省課長による大変参考になる貴重なお話を伺いました。

コロナ事態も徐々に収まりつつあるようですので、当会の活動も正常に復して設立趣旨に則って活発に活動したく思います。会員の皆様の益々の御健康と御発展をお祈り申し上げます。

理事長 大橋 武郎

第90回定例会

演題「ロシア外交と露日関係」

講師：駐日ロシア連邦特命全権大使ミハイル・ガルージン閣下

令和3年5月15日(土) 12:30～ 於：在日ロシア大使館

5月15日に当会はロシア大使館に於いて定例会を開催いたしました。外国の大使館で会を催すことは初めての試みだったので皆様の関心も高く予定していた人数もすぐに埋まりました。当日は遠くは広島県や兵庫県からの参加者も得て結局46人が大使館内の大きなサロンに集まり「ロシア外交と露日関係」と題するロシア大使の話に熱心に聞き入りまた活発な質疑応答がありました。ロシア大使の日本語は素晴らしく日本人と変わらぬ流暢さで聴衆を驚かせました。講演会は12時半から2時近くの長時間に亘ったので以下はその時の大使のお話のほんの一部概要です。



略 歴

- 1960年 モスクワ生まれ
- 1982年～1983年モスクワ国立大学群の一つ、アジア・アフリカ諸国大学に在学中に創価大学留学、
- 1983年～ ソ連外務省入省
- 1983年～1986年 駐日ソ連大使館職員
- 1992年～1997年 駐日ロシア大使館職員、
- 2010年～2012年 ロシア外務省第3アジア局局长、
- 2018年1月～ 駐日ロシア連邦特命全権大使

● サンマリノの大使の紹介で今回の講演会を企画した。日本の方と直接お会いしてお話しできることを楽しみにしていた。

● 館内で「不滅の連帯」と題して大祖国戦争（独ソ戦）の写真展示会をしている。開始から今年は81年に当たり2720万人の犠牲者を出した戦争と失った肉親を持つ館員の悲しみを記録しているので見て行ってほしい

● コロナ禍の前と後では世界は変わりつつある。一部の国は勝手なルールで行動しているが全て国連のルールに基づいた秩序に従って行動すべきである。米国のイラク侵攻やリビア、シリアなどへの干渉の結果どうなったか。前より悪くなっているのではないか。またウクライナでの2014年の政権交代はテロリストによる非合法的なものなのに米国はこれを支持している。

● また米国は先般ベラルーシのルカチェンコ大統領がアイルランド機を強制着陸させたと非難しているが米国自身もかつてボリビア大統領の専用機をウィーンに強制着陸させたことがあるではないか、米国にベラルーシを非難する資格などない。

● ロシアはASEAN（東南アジア諸国連合）などにも政策や安全保障、経済面などから協力している。しかし日本などが提唱している「自由で開かれたインド・太平洋」政策などはロシアを除外しており遺憾である。

● 日ロ関係は重要だ。日本はLNG輸入量の8%、原油の5%を始め石炭、木材などをロシアから輸入。現在医療、スマートシティ、サプライチェーンなど8プロジェクトで協力推進中である。

● 日露間に平和条約が未締結だから関係が発展しないという事はない。1956年に日ソ共同宣言が出され戦争状態は終結している。安倍前首相とプーチン大統領との間で日露関係は大きく進展した。

● 国境問題も解決して現在露中間の関係は最良である。ウイグル人迫害問題を非難しろというがどこに迫害の証拠があるか。内政問題だからロシアは干渉しない。

※以上は大使の見解であり、当会の見解ではありませんので一念のため



講演と質疑応答風景





大橋理事長から大使にプリザーブドフラワーを贈呈

以下参加者の感想をご紹介します。

小椋満典さん（非会員：広島）

私はロシア大使館に来させて頂いた事も、この会に参加させて頂く事も初めての事でしたので、全てのことに對して新鮮で考え深い出来事になりました。

元々ロシアという国に対しては、大国という点からも国の方向性についても興味深い思いがございましたので、本当に良き時間を過ごす事が出来た事に感謝しております。

特命全権大使のミハイル Y. ガルージン閣下の話を聞いた事にも深い感銘を受けましたが、日本に対しての配慮を考えながら、今のロシアの立場を理解して貰う為の言葉の選択が脳裏に強く残っております。

話を聞くに伴って、第一次、第二次世界大戦からその後の激動の20世紀に時を刻んだロシアの歴史はアメリカと共に中心国でしたから、余りにも劇的で世界的に大きな影響を及ぼして来た事が走馬灯の様に思い起こされました。

私達日本人はとかく我が国の立場から物を見てしまいますが、共に世界に君臨する国として、両国の利益を守りながら強い絆を作り上げて欲しいと感じます。

この度は初参加でしたが、今後とも会の行事に参加出来ましたら幸いと存じます。

本当にありがとうございました。

寺根 佳那さん（非会員：埼玉）

この度は、大変貴重な機会をいただき感謝しております。

終始興味深く、大変勉強になりました。

ロシアにおける日本年のモスクワでの公演に出演させていただいた時のことも思い出し、懐かしく感じました。カザンにも必ず訪れたいと存じます。

今後、益々文化交流が盛んになることを祈念し、私自身も尽力して参りたいと存じます。

炭谷宇紀子さん（非会員、千代田ユネスコ協会会長：東京）

日本を敬愛されるガルージン大使の素晴らしいご講演を拝聴させていただき、心から感謝申し上げます。

そして、ロシア連邦共和国と日本の歴史、未来への友好関係がより豊かに結ばれますことを祈ります。

ロシアでピアノを修められた寺根千代田ユネスコ青年理事がご挨拶させていただきました時の大使の微笑みは、まさに国を愛することの象徴のように感じました。

互いが互いの国を認め、友好と平和に繋がりますように。

そして、芸術と音楽こそが癒しであり、未来への糸口と感じた五月の午後でございました。



お世話になった大使館の方々です。

第91回定例会

演題「中国を見るキーワード(私論)」

講師:外務省 アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課長 門脇仁一 氏

令和3年6月19日(土) 14:00～ 於:としま区民センター

講師略歴



- 1971 (S46) 年 兵庫県生まれ
- 1995 (H7) 年 東京大学法学部、外務省入省
- 2001 (H13) 年 アジア大洋州北東アジア課、
- 2002 (H14) 年 同課長補佐、
- 2008 (H20) 年 北米局日米安全保障条約課日米地位協定室 首席事務官、
- 2010 (H22) 年 国際協力局開発協力総括課 首席事務官、
- 2012 (H24) 年 総合外交政策局安全保障政策課 主席事務官、
- 2015 (H27) 年 在中華人民共和国日本国大使館参事官、
- 2019 (R1) 年 現職

これまで中国と関わってきた体験の中で、現在の外務省員の立場からではなく、あくまでチャイナウォッチャーの一人として個人的にどのように中国という国を見てきたのかについて話させて頂きたい。中国という長い歴史を持つ大国を理解することは極めて難しく、関われば関わるほどその感を強くする。私論にて中国を理解するための10のキーワードを紹介したい。

1. 「中国の夢」

現代の中国を理解する上では、清朝後期からの近現代史の流れを理解することが重要である。大国、強国を誇ってきた中国がアヘン戦争以来、小さな隣国と思っていた日本にも敗戦する等、1949年に中華人民共和国が成立するまで屈辱的な時代を経てきた。中国にとってはその苦しい時代からの復興が夢であり、それが成長の基盤になっている。習近平が掲げる「毛沢東で立ち上がり、鄧小平で豊かになり、習近平で強くなる」は現在までの中国の状況が凝縮された言葉であると言われる。第一世代は毛沢東、第二世代は鄧小平、第三世代は江沢民、第四世代は胡錦濤、それに続いて第五世代が現在の習近平である。毛沢東時代は階級闘争であり、経済は余り発展せず、それほど国力が伸びていない。そのあと鄧小平が改革開放政策を打ち出した。それまではソ連型の計画経済を見習っていたが、働くインセンティブを与えることができない等の欠陥があり、それを徐々に改善した。そのおかげで社会主義を標榜しながら市場経済が成り立つようにしていった（大転換）。そこには「中国は社会主義の初期段階にある」という認定があり、初期段階においては生産力の拡大が必要であるという理論的なマジックが存在した。

習近平指導部が掲げる中長期目標（2017年－）

◆習近平主席は第19回党大会で中国「強国」化への青写真を提示。

①「習近平による新時代の中国の特色ある社会主義思想」が指導理念に

➢「中華民族な偉大な飛躍」として、「站起来（立ち上がり）」（毛の新中国建設）
→「富起来（豊かになり）」（鄧の改革開放）→「強起来（強くなる）」（習近平時代）

②今世紀半ばまでの目標を設定

➢2020年に「小康社会」全面的完成し、2035年に「社会主義現代化」を基本的実現し、2049年に「社会主義現代化強国」に。

③「中国の特色ある強軍の道」

➢軍は2020年に機械化を基本的に実現、情報化建設を大きく進展、戦略能力を大きく向上。
2035年に国防と軍隊の現代化を基本的実現し、2049年に世界一流の軍隊に。

第19回党大会（習政権2期目） 2017年
「小康社会」の全面的完成（脱貧困の達成） 2020年
中国共産党成立百周年 2021年
第20回党大会（習近平3期目？） 2022年
「社会主義現代化」を基本的に実現 2035年
今世紀中葉（2049年）の建設「社会主義現代化強国」の建設 2049年
中華人民共和国建国百周年

現在は中長期的な二つの目標が掲げられている。二つの百年、すなわち中国共産党成立百周年（2021年7月1日）と中華人民共和国建国百周年（2049年）が柱になっている。

2020年の目標は「小康社会の全面的完成（脱貧困の達成）」であり、ある程度余裕がある社会は達成されたとと言える。2049年の目標「社会主義現代化強国の建設」は、米国に追いつき、追い越すことを意味するのではないかとされている。途中（2035年）に中期目標「社会主義現代化を基本的に実現」を掲げており、いずれも我々にとっては抽象的な目標と感ずるものであるが、まず抽象的な目標を設定してそれを徐々に具体化していくことは、中国の伝統ともいえる。

2. 「韜光養晦（とうこうようかい）」

鄧小平が外交の姿勢に関して述べた言葉。「すぐれた才能などを人に気づかれないように包み隠すこと」という意味。中国は国全体の経済は成長しているが、それをひけらかすのではなくなるべく静かにしておこう—GDP/人はいまだに低いし、いろいろな分野で立ち遅れている—、それを忘れずに今は力を蓄えよう、という考え方。この考え方に沿った外交路線は習近平が就任する直前まで（胡錦濤時代の終わりのころ）には薄れつつあったと言われている。特にリーマンショックが起きて世界経済が揺るぎ始めた頃、中国は4兆元（約60兆円）の経済刺激策を打って世界経済に貢献したという自負がある。そのころから外交的にはより積極的に中国が世界への影響力を高めていくという発想の転換がはかられ、その流れで習近平になってから、一帯一路の構想などで外への影響を高めていったと見られている。実際、約10数年前から公の場で他国に対して自己主張の強い表現が目立ってきたと思う。

3. 2つの畏

習近平は何を大きな課題として捉えて中国をどのように牽引していくのかについての答えがこの二つの言葉に凝縮されていると考えている。

* トウキデイデスの畏

* 今の時代、米中関係を表している。米国の対中国認識が厳しくなったのはオバマ政権の終わりごろからで、中国による南シナ海への進出とサイバー攻撃等がきっかけになったと見ている。それまで米中関係が安定し

てきた一つの大きな要素は、経済関係であるが、サイバー攻撃や技術窃取を機に米国の経済界自身の中国に対する見方が厳しくなったようである。一般に中国という国に対して、自由な発想を抑圧する社会であること、またイノベーションは起こり難い国であると考えられる傾向があったが、それに反して中国において新しい技術が生まれてくるようになったことに危機感を感ずるようになり、結果トランプ政権になって対中国政策をより厳しい姿勢で打ち出していくことになったと言われている。

* 中所得国の罣

中国経済が発展したといえども、一人当たりのGDPはまだ1万ドル程度と決して高いとはいえない。この中所得国の罣に陥らないよう政権指導者がいわば上からイノベーションの発揚を鼓舞している。

4. 闘争

習近平は共産党の会議でエリートを前にし、「闘争」という言葉を多発した。また、中国外交部も、幹部に対する評価項目として、「政治的態度」、「責任ある行動」、といった内容に加えて「闘争精神」を掲げている。実際、対外的に発信する言葉でも、「闘争」と同じような攻撃的な発言が多くなっている。

5. 文化大革命

1966年から十年間にわたり毛沢東が主導した思想革命。死者は二千万人、けがをした人は一億人にも及ぶとも言われている。その間、奨励されたのは密告であった。

二十年以上前に留学していた南京で印象深かった経験として、当時の中国の人は他人と接するときには、日本と比べて、人間関係が身内か他人の両極端の判断になり、身内と判断されれば家族同然になるが、それ以外の他人に対しては常に、信用してよいか否か、慎重に判断をしているようであった。今となっては少なくとも北京や上海といった大都市はこのような白か黒か比較的是っきりした人間関係も変わりつつあるが、まだ文化大革命の影響が残っている部分があるのではないかと感じることもある。



6. 三国志演義

二千年以上前の三国時代を背景にした歴史小説。多額の製作費をかけて少なくとも二度ドラマ化されているが、なかなか見応えがある。二千年近くも前から、中国においては、このような高度な権謀術数（註参照）が発展していたということは念頭に置いておく必要がある。

【註：主に社会や組織などの集団において物事を利己的な方向へ導き、自身の地位や評価などを高めるために取られる手段や策略】

7. 辛亥革命

1911年、辛亥革命により清朝が打倒されて中華民国が成立したが、このあたりの歴史の中で、日本と中国は深い関係があった。日本は革命にあたり梅屋庄吉、宮崎滔天、山田良政・純三郎兄弟、犬養毅、頭山満などが孫文を支援した。

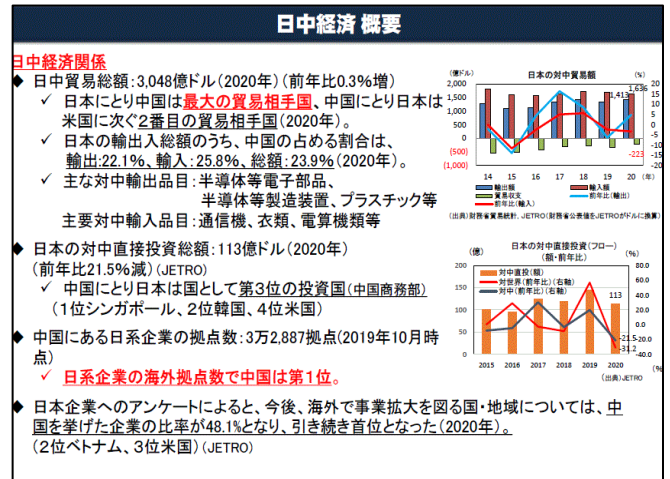
当時は、中国から日本への留学者が多数に上り、中国は日本を通して欧米の文化を学んだ。

現在使われている学術用語（文化、文明、共産主義など）の多くが日本から渡ったものである。ペリー来航の際には、米国の通訳が英語を広東語に訳し、羅森という中国人の通訳が、これを漢文にすることで当時の日本人は良く理解できたということもあった。

以降、今後中国はどうなっていくかということについての私論。

8. 第四次産業革命

アリババのジャック・マー氏（ネット革命を起こした中国一の実業家）は、これからの中国経済において計画経済が増えていくとの趣旨を述べたことがある。過去の計画経済は、インセンティブの問題以外に、需要、供給も含め莫大な情報が得られないなどの欠陥があったとされるが、今後は、ビッグデータ、AIなどの新技術の大きな力を駆使すれば、現在までに築かれた市場経済を残しながら、よりコントロールの効いた新しい経済政策も可能になるという意味で述べたものと理解している。中国人には新しいものに対する好奇心の強さがあり、それが、イノベーション力にもつながる。



9. 西方の乱、中国（東方）之治

中国において、西側と中国或いはアジアのそれぞれの情勢を表現するものとして数年前に聞かれた言葉。トランプ大統領出現による国内の乱れと英国の EU 離脱など、西欧の民主主義は安定していないと批判し、中国或いはアジアはより安定しており、欧米型の体制は必ずしも良いものではないとの文脈で語られる。

10. 未富先老

中国の将来に向けて抱える大きな問題の一つは高齢化社会である（社会保障費の増大）。中国の高齢化は日本から30年遅れて進行していると言われるが、経済のレベルでは格差が大きい（1990年の中国の一人当たりのGDPは1万ドル、対する同時期の日本では2.5万ドルである）ことに着目するもので、まだ十分豊かになっていないのに、もう高齢化が始まってしまっているという意味である。1980年代から行われてきた一人っ子政策を転換しようとしているが養育費の高さ等が、政策の進捗を阻んでいるように見える。高齢化に直面していく中で、中所得国の罠に陥らず、更なる経済成長を遂げていくためにイノベーションに力を入れているのが現在の状況である。

現在中国人の価値観は多様化している。中国を理解するのに耳学問は役に立たないじかに接して試みるのが大切。

* 百聞は一見に如かず

現在中国は刻々と変化しており、中国の人も様々である。中国を理解するのに耳学問だけでは心細く、直に接して試みるのが大切であると思う。



事務局からのお知らせ

- * 令和二年度はコロナ禍で定例会が中止、延期を迫られる苦難な年でありましたが、皆様のご協力により無事終えることができました。一方、日本を護る会の年度は7月から始まるために年会費の支払い時期について分かりにくいなどの声を耳にします。もう少し会員の皆様とのコミュニケーションを密にすべく改善をしていきたいと考えます。皆様のご理解とさらなるご支援を頂きたくよろしくお願いいたします。
- * 当会の重要な目標である認定取得のための再申請は去る11月に行われましたが、都庁当局の監査がコロナ禍の中延期となり7月初旬に行われることになりました。滞りなく認定取得が叶うことを願っています。
- * 現在、会員相互の交流の更なる向上を目指すべくホームページの充実を図っています。会員からの体験レポートなど、相互の共有を増進するために皆様から寄稿していただくことを期待しています。ただし採用の有無は理事会にお任せを頂きたくご理解ください。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

今後の予定

(1) 7月の定例会

日時：7月24日(土) 14時
場所：としま区民センター
講師：佐藤行雄 元国連大使
演題：「国際連合の虚と実」

(2) 8月の研修会

横浜海上保安庁訓練施設の見学(予定)

(3) 9月の定時総会及び記念講演

日時：9月18日(土) 14時
場所：カフェ・ジュリエ (銀座)
講演：「日英同盟復活」(仮称)
講師：英国王立防衛安全保障研究所
日本代表 秋元千明氏

原則、メールにてお申し込み下さい。

年会費の御案内

1. 機関誌をEメールで受け取る会員 3,000円
 2. 機関誌を郵送で受け取る会員 5,000円 (3,000円+送付料2,000円)
- 当会の健全運営に資するため御寄付(一口1,000円)を戴けますことは、いつでも大歓迎です。ご意思のある方は事務局までEメールにて承ります。

新会員のお誘い

当会では、お友達など会の趣旨に賛同していただける会員を広く募集を致しております。

年会費お振り込み先

ゆうちょ銀行

店番号 038 普通預金 記号10380 番号92589171
口座名義 トクヒ)ニホンヲマモルカイ

日本を護る会・レポート 第41号 令和3年6月発行

編集発行: 特定非営利活動法人 日本を護る会

ホームページ：<http://awake-japan.sakura.ne.jp>

E-mail：awake-japan@googlegroups.com